

● 平成23年度第6回 下山地域会議 会議録 ●

【日時】平成23年9月15日（木） 19:00～21:00

【場所】下山交流館 多目的ルーム

【出席者】区長会6名(欠:1名) 地域会議12名(欠:3名) コミ2名(欠:1名)  
事務局 天野支所長 中野主幹 宇野副主幹 加藤係長

【次第】1 あいさつ

2 報告 現状の活動報告

・区長会 ・地域会議 ・コミュニティ会議（各部会）

3 意見交換

(1) 地域予算提案事業について

(2) 地域会議からの提案について

(3) その他

4 今後の日程について

第7回地域会議

10月20日（木）午後7時より 下山支所

---

【内容】

1 あいさつ

(支所長) 下山地域内の敬老慰問に行った。最高齢は103歳、2番目は100歳、3番目が99歳で、3人訪問し100歳の方が一番元気で、活発に会話をされ、頭もしっかりしてみえ、こういう元気なお年寄りの方が安心して暮らせる地域づくりを進めていきたいと感じた。下山支所は社会部に属しており、社会部では平成23年度に重点目標で4つ使命を定めている。一つ目は共働によるまちづくりの要となる地域自治システムの活用促進。二つ目は中山間地域の過疎定住対策の推進。三つ目は防災防犯及び交通安全の地域活動への支援を中心とした安心安全な地域づくり。四つ目は高齢者の社会参加による生きがい作りの推進。中でも一つ目の地域自治システムの活用促進は特に重要であると思っている。豊田市の共働によるまちづくり活動は各地区の地域会議、自治区の区長、コミュニティ会議などの活動や、行政計画策定時に市民参加などにより様々な担い手の皆さんによって展開されている。これらの共働の取り組みを支える、中心的な役割を持つ三つの組織の方々が一同に会する年に一度の合同会議。それぞれの団体が情報を共有し連携を密にして、下山地域のまちづくりを勧めていただきたいと思いますので、今日はよろしくお願ひしたい。

(市議) 先日11日に花山の神社で農村舞台プロジェクトという催し物があり、羽布の若い衆が三河万歳を披露し、後は弾き語りとベリーダンスで、芸術の秋、文化の秋といろんな催し物があるので、催し物がある時には声をかけて、たくさんの方が参加でき横のつながりやコミュニケーションができるといいと思う。間もなくよってらっ祭みてらっ祭や、交流館のふれあい祭りもあるので、なかなか集まることも少なく、そういう機会しかコミュニケーションを作る機会もないので、地区のみんなが集まって話が出来たらいいと思う。

2 報告 現状の活動報告

・区長会

各自治区の区長の役割として自治区はコミュニティーの基礎的な組織であり、そのリーダーである自治区長は核となって各種役員の協力をいただきながら住みやすいまちづくりを進めるために地域住民の方々と話し合いながら自治区を運営し、自治区の抱えている高齢化や、災害などそう

いったことに対して多くの課題を解決するために活動していくことだと思う。そういった中で一番私が感じているのは、区長会あるいは自治区長は行政との協力関係にあるため、行政施策の推進にあたり、依頼され協力する事務が膨大にあり、それに加えて下山の事業所や団体から頼まれることが多く、そういったことに追われる毎日だと思う。一言で言えば小間使いだと言われるが、そんな思いを抱きながら活動している。

(和合) 今43戸程あり年寄りだけというのは1件。一度災害が起きるとどこに誰がいるか分からない。自治区として取り組む一番の課題としては、和合として何かあった時にどこに連絡したらいいのか、この間の役員会で資料をまとめていくと活動を進めているのが一番大きな活動である。

(阿蔵) 自治区に会費を納めているのが76世帯、高齢者が74人ということで、ほぼ1世帯に一人75歳以上の方がみえることになる。今いろんな所で定住に向けての検討をしており、深刻に考えているが、地域にそれだけの深刻性、自覚があるかどうか、これもたぶんに跡取りの話は個人情報に関わりますので、区長が突っ込んで何とかせよというわけには行かない大変悩ましい状況を抱えて苦慮している状況である。

(大沼) 自治区の高齢者名簿作ったら75歳以上の方が約400人のうち196人が75歳以上である。このように会議を開いて情報をいただいても、うまく住民に情報が届いていない。今年から地域会議、里楽暮住しもやま会の方達に毎月出ていただき、下山地区ではこういうことをやり、このように、こういう目標を持って進んでいるということを各組長にまでしか話がこの場では出来ないが、各組長が各組の集会で報告ではなく教えてあげてくださいと、わかるように説明をして教えてあげてくださいというようなことを今年から始めた。各地区代表の地域会議の方が積極的にそういう情報を持っていき、しっかり言っていただきたい。それが一番の薬になると思う。

(三巴) 小学校が廃校になり7年目に入り、交通アクセスは良い、川や緑は綺麗だ、何とか学校を残す方法はないか検討して、使い道などみんなと相談しているが思う様に話は進まない。地区をあげて朝市をやっているが、毎月第一日曜日の原則1回しか行わないが、9月11日は人数で177人の客が寄ってくれ、決まった客もいるが、通りがかりの客もかなり多く、やはり通りがいいのかという気はしている。金額的にも10万円位で毎回続いているので、これを機にして、年寄りの活性化、生きがいに結びつけてけば良いという気持ちで朝市を一生懸命やっている。

(田平沢) まず平成21年から3年になるが、立岩にある産業廃棄物の施設から出てくる匂いに大変住民の方が困っており、それを解決すべく毎年一回会議を開いている。この土曜日にも現地を視察しながら説明を聞き、皆さんと話し合った。幸い良い方向に向きかけているという中間報告である状況。次に平瀬の道路工事、ほぼ完成のところで大雨が降って崩れたということで、予算も無く規模の大きい崩落ということで、話し合いや説明会を数回開いて理解をいただいたところである。次に学校の跡地の問題。田平沢自治区はちょっと危険な箇所にあるが、跡地を非常時や自治区の集会、防災訓練等をする時に使うようにしたい。次に学校前にある時報や火事などを知らせるサイレンが壊れ、自治区に4つある行政の無線を利用してサイレンを鳴らし放送をすることを9月3日に防災防犯課に頼み実施予定だった台風で流れてしまった。山だから反射して聞こえないという意見が非常に多く、サイレンや放送がどこまで聞こえるか。いざ何かがあった時に、電話はダメ、電気もダメ、使えるのはあの無線しかない。皆さんが無線を使えるように、放送が聞こえるように訓練をやりたかったが流れたということで、また機会を見てやりたいと思う。

(羽布) 全戸で103戸位、3町で初めて7月2日に懇親会をやろうと60人位集まり、皆さんに盛り上げてもらい会を設けた。また台風6号で羽布ダムの水量調整もあったと思うが川の水が増え、特に大桑の製材所が、もう少しで水があふれ入るという状況だった。羽布ダムに電話をした

が、どの程度調整したかは知らないが徐々に水が引き止った。緊急連絡網を早急につけて各家庭に配備し、何かあった時には、すぐわかる場所に貼ってもらって連絡をいただこうと思う。もう一つは、わくわく事業で、去年1年何かあったらと、みんなで毎月毎月何かあるかと聞いた。今年はしなかったが、来年は何かしたいと思う。

#### ・地域会議

地域会議としては、わくわく事業をまず第一に取り組んでおり、より多くの方が参加いただけるといいと思いながらやっているが、なかなかうまくいっていない。ぜひ1件でも多く利用していただけるようにお力添えをお願いしたいと思う。あとは、次の資料にもある、地域予算提案事業を検討している。

#### ・コミュニティ会議

(広報部会) 広報部会は広報誌を年間4回出しており、内容は主にコミュニティ会議の部会の活動が中心で、他にも所属している団体の活動等を載せている。青少年部会だと、成人式。体育部会だと下山地区体育大会。ふれあい部会だと研修会や交流館のふれあい祭等の取材をし、広報誌に載せている。地域の皆さんにコミュニティ活動をなるべくわかりやすく報告していく形である。

(ふれあい部会) ふれあい部会は、10月22・23日のふれあい祭が主である。よってらっ祭と同時なため、外には居るが中にはなかなか来てもらえないので、スタンプラリーでゴム印を押したらクジをやるという話で予定をしている。あと、部会の研修で11月27日美術館に、部会員に声をかけ40名達しなかったら一般公募するので、機会があったらぜひ、参加いただきたい。

(青少年部会) 青少年部会はまず陶芸教室7月10日(日)に子供23名、保護者12名が参加し杉浦雅男先生の指導の下、作りたいものを自由に作成した。2つ目が愛のパトロールで8月31日下山グラウンドにて夏祭りに合わせ保護司の方と合同で啓発うちわを350枚配布した。その後、下山中学校のPTAの皆さんと一緒に祭り会場の暗い所を、電気をつけてパトロールをした。3つ目が社会を明るくする運動で8月25日(木)花山小学校体育館で保護司会と合同で、この運動の趣旨を説明し啓発グッズ200組を配布しました。今後の予定としては交流館祭に食育ブースを出店し、豆つまみなどの食育ゲームと啓発グッズの配布をする。2つ目に新成人祝う会に向けて4回の実行委員会を予定している。3つ目が親子料理教室を、2月下旬のイベント「香恋の里の冬も元気だ」に合わせて山遊里にて予定している。

(体育部会) 体育部会は、体育大会で、今までなぜ盛り上がり欠けていたかということ、子ども達が参加しない。そうすると大人もついてこないで盛り上がり欠けているのではないかと。子ども達が参加する方法を考えてはどうかということで、子ども達男女混合で対抗リレーをやり、地域の対抗種目に入れて、子ども達が参加して良かったと思うように持ち回りのトロフィーを渡してやろうということになった。2つ目が、消防団の方にも参加してもらうことになり、操法をやるということで、なかなか見る機会が無いので大会の様にやってほしいと方面隊長をお願いしてある。それから商工会の方がバザーの様なことをやってはどうかと依頼している。今年は3つのことをやって盛り上げていこうという話である。

### 3 意見交換

(1) 地域予算提案事業について 事務局より資料に基づいて説明

(2) 地域会議からの提案について

(地域会議会長) 地域会議において来年度の事業計画について話し合いをしたが、皆さんに提案し意見を聞かせていただきたい。まず、最近、自分の山に山菜を取りに入ったら何も無いなどの話があり、下山村時代に「山を荒らしてはいけない」といった立て看板を作られたことがあったが、

それぞれの地域において今後パトロールをしながら地元を守っていこうという動きの基にできるか、例えばパトロールをするなど活動報告しながら地元において看板が必要かどうか。もう一つは、地域会議の委員に地元で席を設けて欲しい。地域の代表として選出され毎月一度会議を開いており、その情報を地元へ持ち帰ること、地元の意見を集約して会議へ持ち帰りそれを発表して発展につなげていくという意見の交換が出来る場にしていきたいと思っている。ぜひ取り組んでいきたいと思うので、意見をお聞きしたい。

(地域会議委員) 山や土地には全て所有者があるがなしにされている部分が非常にあり、自然に生える物だから、公共の物だという考えの方がいる。それは大きな間違いであり、自然に生えようが、その土地に生えているものはその土地の所有者に帰属するのだということをPRする必要があるということで提案をした。意識の中に土地の所有者の権利として、その所有者の権利を守っていくということを明確に下山地区はしたいと思っています。

(地域会議委員) 地域会議からとして組長会に出席させていただいた。その中で意見もいただけるし、これは各区でもやっていただきたいと思う。

(地域会議委員) 地域会議の中での反対意見にはなるが山里の景観というのは万人の所有物というか、スローライフ健康管理を第一として、四季折々の自然の景観とか雰囲気というものを楽しみたい。そうした場合に、例えば草花を楽しもうと思って佇んでいるだけで何か下見をしているのではないかという捉え方をされたら、山里を楽しむ余裕はなくなってしまうのではないか。ギスギスした地域感を持ってもらいたくないと思う。

(地域会議委員) 地域の人には、この山には絶対入ってはいけないという認識を持っている人と、県外出身者など他所の山でも別に入ってもいいのではという人という。そこで入ったから悪者扱いするのではなく、看板があれば、「いけない」ということを知ってもらうことも大事ではないかと思う。

(地域会議委員) 手入れをしている山、雑木林等があるが、その地区にある特有の植物、ツツジやランなどがある。それを採られてしまうということは、その地区の財産を盗られてしまう。荒らされてしまうということはあってはならないことではないかと、それが一番重要だと思う。

(地域会議委員) 道沿いの近いところは入ってしまう、民家があるにもかかわらず、近くに入って蕨を盗るということは全然関係ないと思っている方が多いようなので、やはりしっかり表示していかなくてはいけないといつも思っている。地域会議の地域への位置づけについても、いろんなことを話していかないと私達の活動が伝わっていかないと思うので、そういった場が必要と思う。

(地域会議委員) 何らかの形で啓蒙する、そういう手段は講じる必要があると思う。意外と僕達の地域では無断で入られてお金になる物を持っていかれてしまう。例えば「山野草を盗らないでください」と看板かけるとわざわざ探しにみえる方がいる。咲いている場で増殖も図りやすいし、その場で見てその場で楽しむという気持ちになんてなってくれないかと残念に思う経験をした事がある。下山地域に入ったら自然に「この地域にはこういう習慣があつて、黙って採るとか泥棒行為はダメですよ」という啓蒙をするような看板、「マムシに注意」という看板が置いてあると皆さん警戒もされるので、モラルの問題として訴えていく看板も必要じゃないかと思う。

(事務局) 地域会議の中でも色々な意見が出ている。どの部分で実際に困っているのか、どういったことで地域の見守りをしなければいけないという意見をお聞きしたい。参考として、自治区補助で防犯の犯罪の無いまちづくり条例で、活動団体を登録し必ず継続的かつ計画的に3人以上のグループで月1回以上の活動を実施ということで、パトロールや通学路における子供の安全確保、その他の警戒または啓発活動をする団体が報告をすることによってジャンパーまたはベスト、腕

章・帽子など防災防犯課から支給される支援制度が既にある。こういった見守りがまちづくり地域づくりとして必要なのか、実際にこういった困った声がある、こういう姿を見かけるとい話をお聞かせいただき、意見交換をお願いしたい。山や個人地であれば、まずは個人で守るべきではないかというところもあるので、山菜も山も山野草も全て含めて地域資源と言われるものをどう守っていくのか、地域会議として取り上げていくのかという議論をしている。

(区長) 地元の人でも、コシアブラを採ってきたと言っているが、ほとんど他所の山で採っていると思う。下山はこういう良い物もある、下山に行くと薇や蕨がたくさんある、つくしもあると、そういう地域でいいじゃないか。ただ、看板を立てるくらいは啓蒙の意味で反対ではないが、いかがか。へボの巢も自所の山なら採っていいが、他所の山はいけない。コシアブラも他所の山から採ってはいけない。地元の人でも全部他所の山で採っているのが多いのではないか。

(区長) 何かそういう啓蒙・啓発するものはほしいが、見回り報告までいくとどうか。

(区長) 例えば道路があり、山があり、その山にコシアブラがあつたら、みんな採っていく。お互いにやっているのではないか。昔、子どもの頃、山芋掘っても穴だけは埋めなきゃいかんというルールだったがギスギスしちゃうとどうか。へボも取れなくなる。

(地域会議会長) 一番の問題は、我々の子どもの頃は街の人は、へボを採ることも知らなかった。山芋も多くの人が掘っていくわけではなかった。今は誰でもする。そうなると、軒並みやられると度を越しているのではないかと他の人も思うのではないか。

(区長) 以前に話を聞いたが、明示していない場合は盗られても仕方ない。明示がしてあれば文句を言えるが、明示していないと文句は言えない、そういった意味では看板は必要だと思う。

(区長) 組長会議で話をした。マナーの問題である。看板の文字は考えなければいけない。看板を立てる事に反対の人はいなかった。最近インターネットなどで、あそこに行くといれがあるといふと来る、だから看板というのは必要だと思う。それと不法投棄みたいに、自分も奥に山があるが、なかなかいく暇が無く、たまに行くといれなどが棄ててあることがある。たまには自分の山にも行かないといかんと思う。今は人数も少ない、年寄りも多くなった。若い人は山も田んぼも眼が向かない。地域を見回るなんてこともしない、そんなに頻繁に見回る必要は無いが、たまには見回ることも必要じゃないかという意見は組長会では出ていた。

(地域会議委員) 山に入るな、入ってもらっては困るという看板はふさわしくないと思う。土地に住んでいる人が何をして欲しくないかという勝手に取っていくことがいけないのであって、景色を見るなら大歓迎。個人の物を盗ってはいけないといれを訴えたいから提案した。土地には全て所有者がいる、その所有者の物を勝手に取っていくのは法律的にいいのか、地元の人には習慣的にやっているから多めにみているのか、地域に住んでいる人はいいが他所の人はだめなのか、その区別はどうするのかという話になる。

(地域会議会長) 提案事業によって地域の啓発のために看板を設置した方がいいか。それには地域の人がパトロールとか啓発活動を行う方法を考えなければいけない。看板は書き方だと思う。田舎のよさが感じられるような方法で、害が感じられない方がいいと思うが方向を決めていきたいと思う。地域ぐるみで皆さんの協力を得て、活動も一緒にしながらではないといれできない。

(地域会議委員) 下山でも温度差があり、被害があるところは是非やって欲しい、全然被害が無いから採ってもらっていいよといれ所を分けて、下山全体ではなくても地域予算提案事業でできるか。看板を出すことにより、地域予算提案事業で不法投棄と不法採取に対して地域全体で取り組むという姿勢があれば、マスコミをお願いして下山の地域の活動をPRすれば、広めていくことは可能だと思う。下山全体で出来れば一番いいが、一部地域でやっても可能なのか。

(事務局) 下山全域でやるから地域課題というわけではなく、奥の山の資源を下山地域として守らなくてはならないというのもある。いろんなツールを使つてのPRというのは可能。ただ地域の人達が下山地域としてやっているというのをPRすることになる。

(区長)「山に入るな 地主」というのが立っている。ここに入ると地主が難儀すると思うから個人でやった方がいいのではないか。

(地域会議会長)「自分の財産は自分で守りなさい」というのが原則。看板は無くてもその地域でパトロール活動をしていると、ある程度の防御の活動はできている。それをより効果的にするために看板という方法もある。看板ではなく実際はこの地域の活動の話をしており、地域会議のメンバーも地域に入り役員会などに出させもらい協議させていただき、取り組んでいきたいと思う。

(コミ部会長) 地域に情報を下ろし、地域会議にもこれから入ってきていただくので、地域会議ばっかりに責任を押し付けず、会議に出た人みんな地域で検討し地域からの提案をみんなで地域会議の人にしましょう。

(事務局) 早急にやれる話ではないので、確実に地域で検討し事業が必要であれば、予算は24年度に要求をして、25年度に実施が出来る方向で動く。

(地域会議会長) 間に合うのは地元の活動。

(区長) 予算化しても、しなくても地域に必要なことはやればいい。ジャンパーが欲しければ補助制度である。今困っている人がいればこっちを先に。

(事務局) これから地域会議で検討しながら、皆さんにいろんなことを聞かせていただく。次に地域会議員の地域での位置づけについてで、地域会議として情報伝達できていない、意見集約ができていないという問題がある。参考に、里楽暮住しもやま会という定住の会議の方が自治区の定例会の前に都合がつく限り参加し会議の報告をしているという話も聞いている。地域会議も必ず毎月1回行っており、地域にどんな内容かを知らせたり、地域でこういうことを地域会議で検討した方がいいというような意見集約が出来る場づくりをしていきたいと思っている。そういった場の位置づけが地域でしていただけないかということ提案したい。

(区長) それは問題ない、これから出てもらうとか可能ではないか。しっかりしたものがないとまずいか。例えば和合自治区の役員会の中に地域会議委員の名前を入れておけばいい。そういう位置づけが欲しいということか。そういった場合に必ず出る機会を作っておけばいいか。

(区長) そういう議題・内容がある時だけではなく、委員の人達は毎月各自治区の役員会に出てもらって報告するのは当たり前だと思う。代表だから。

(コミ部会長) 地域会議の人に地域推薦だから、当然に責任があるというのは過大すぎると思う。逆に、地域推薦で出ているから、みんなに地域会議の人にいろんな情報とかアイデアとか伝える。そういう協力をしてもらいたい。そうしないと地域会議委員も不安。

(地域会議会長) 地域会議は地区推薦だけでは成り立たない。17名の委員がおり、公募や学識経験者、団体から選出された方や区長もいる。だけど、この人達が地区代表じゃないから地域に対しては責任を追わないというのは、ちょっと。会議に行けば黙っていても耳に聞こえてくる。委員という立場で聞けば周りの人がいろいろ言っている事が、耳に入ってくる。そのことを地域会議に持ち寄っていただき、こんな意見が出るというのが会議のプラスになると思っている。

(地域会議委員) 地域会議の構成員の決まりがあり、地域推薦は何人、職域は何人という決まりを、地区との意見を密接にとりたいなら、地域会議の委員を更新する時点で地区との接点をきちんと取れるようなことを考えて地域会議の構成を将来的には考えるべきではないか。

(区長) 出身団体を背負ってきているから、農協から出ているなら農協の意見をいうのが農協の代

表者、そういう意見を集めるためにやっている。そうでなければ全部公募にすればいい。ただ地域会議に出ているなら地域の意見を吸い上げて出てくるのは当然だと思う。

(地域会議委員) これから関わりを変えればいい。

(事務局) 構成は、今年度選考委員会を設けてその中で枠を決める。例年でいくと、地域会議の会長・副会長、区長会の会長・副会長、支所長で構成をし、下山地域のまちづくりを話し合うのにどのような構成員が必要かというのを選考委員会で決める。委嘱をした後、地域に地域会議委員を知らせる時には、支所だよりも名前と町名という形でPRし、推薦母体は載せていない。

(地域会議委員) 地域会議委員を地域から選ぶ場合は、地域の中から選ぶので、地域に帰れば地域代表の地域会議委員は誰かというのは地域の人は当然わかっている。

(事務局) 下山地域の意見を取りまとめるにあたって、地域の代表だとか、各会の代表に出ていただくことによって、下山地域全体の合意形成をする。各自治区に帰って定例会なり位置づけするとなると、全員が全員地域推薦委員ではないから、その方の扱いも含めて今後考え、その地域に入っていただく方法を委員を選ぶのにあたって考えていかなければいけない。

(地域会議会長) 地区推薦の人は当然その地区があるが、公募や団体の人達は居住区がそこにあるので、いったん選出されて、今度は住んでいる地元に戻り、その地域の意見を吸い上げたり、意見普及に努めるというふうに、活動して欲しいと思う。

(事務局) 各種団体から意見をいただき、団体の方々もしくは住民の方々に活動の報告をいただければと思う。コミュニティスポーツ部会長より活動報告を。

(コミ部会長) 10月9日に運動会を開催する。商工会はなしで、消防と小学校は協力していただける。こども園の子からご老人までみんなが一堂に会して、下山でやる機会はそんなにないかと思いますので、皆様のご協力をよろしく願いしたい。

(事務局) 地域会議において、地域の課題など下山のまちづくりについて検討していくので、是非皆様のご理解をいただき、いろんな形で地域住民にお知らせをいただければと思う。各団体からの貴重なご意見を頂き、また今後も地域の為にご協力いただきますようお願いして合同会議を閉会する。本日はありがとうございました。